

近畿村落の変動と村落研究の諸系譜

松 本 通 晴

わが国の戦後三〇年間の村落研究の中で、近畿村落の研究動向はどのように位置づけられるのか、との課題に限定して、本報告を行いたい。一つの地域の研究動向が村落社会研究会の共通課題とどのように関連してきたのかについての資料を提供することができようと思う。

一 近畿の村落 近畿の村落の歴史的諸特徴について提示することは出来ない。ここでは京都、大阪の二府、滋賀、兵庫、奈良、和歌山の四県、それに可能ならば三重県を加えて、それらの地域の村落を対象として取り上げていく。

二 村落研究の諸系譜 いくつかの文献目録を利用して、近畿村落を扱った著書、論文を主に社会学関係を中心として約三五〇点取り上げて整理することができた。それを見ると、研究テーマは多様であり、分類するのも困難である。いま恣意的にいくつかの主要テーマ群を列挙して見よう。

- 1 近畿村落のモノグラフ、近畿村落史
- 2 農業村落、林業村落、漁業村落
- 3 地主制
- 4 移民
- 5 官座
- 6 同族結合、親族

- 7 村落の宗教
 - 8 婚姻、隠居制
- など

しかしこれらの研究テーマの中で、村研の共通課題の深化として自覚的に取り上げた研究は意外に少ない。むしろ共通テーマとの関連というよりも、それらに触発されつつも、研究者個々人の研究テーマを追究するという性格が強い。

三 近畿村落の変動 いくつかの資料をもとに戦後の近畿村落の変動を報告する。

1 一九六〇—一九八〇年の世界農林業センサスを利用して、近畿全自治体の農家の専業兼業別構成の変化を示す。

2 ここで近畿村落を特徴づけてきたといわれる官座の現状を問題にする。一九七九年に京都府（一部）、滋賀県、奈良県、三重県（一部）の旧大字二、五八四と、一九八一年に和歌山県の郡部の旧大字五九九にたいして、官座の存否と存在形態を問う郵送調査を実施したので、この結果を示す。

3 同じ調査で、また同族結合の存否と存在形態を問うたので、これについてもその結果を示す。近畿の同族結合については、戦後一貫していく人かが追究してきた事情があるためである。

4 とくに一九八一年の和歌山県郡部の旧大字五九九にたいしてのみ、講や組の存在と機能の内容について問うたので、これについても結果を示す。

四 このような研究上の作業を通して、何が今後の村落研究の上に提起されるのかを考えたい。